

東アジア経営学会国際連合創立大会に寄せて

—プロシーディングスの発刊をめぐって—

1993年10月1日から2日にわたって、東アジア経営学会国際連合の創立大会と、日本のアジア経営学会の創立大会を同時にとり行うことになったことは、きわめて喜ばしいことである。

東アジア経営学会国際連合の創立をめぐる論議は、すでに昨年1992年9月9日、I F S A M(International Federation of Scholarly Associations of Management)第1回大会が東京の新宿京王プラザホテルにおいて行われた時に始まったものである。

ここでアジアから参加した各国の経営学会の代表が一堂に集まり東アジア経営学会国際連合の可能性について激烈な討論をした結果、1993年の9月か10月に東京で創立総会を開くことを決定した。そこにはモンゴルの代表はいなかったが、後日、モンゴルに連絡した結果、賛意を得たので5カ国の東アジア経営学会国際連合が成立したのである。その他の国々も逐次、加盟し、将来10数カ国になるであろう。

この東アジア経営学会国際連合に参加している各国のおかれた経済的状况は、21世紀の世界経済構造の鍵を握っているといつてよいであろう。なぜなら、欧米諸国は何らかの形で経済構造の大きな転換期にあたり、さらに世界的な景気後退の影響をまともに受けているのに対して、東アジア諸国は、日本を除いて大きな成長を遂げつつある。今でこそ、欧米諸国のG N Pに劣るとはいえ、21世紀に入ると共に、この地域が、世界の経済センターになるであろうということは、ほぼ確実である。しかし、この地域の経済の高度化は、経営学の交流や、各プロジェクトの発展なしにはあり得ないことである。その意味からいって、東アジア経営学会国際連合の成立はこの地域の重要なプロモーターの役割を果たすことになる。その視点からいって、東アジア経営学会国際連合はこの地域の特殊性に根ざした経営はもちろん世界的な普遍性をもった経営の学問的確立のために、大きな貢献が必要となろう。

もちろん、これら経営学の学問交流だけでなく、二国間、多国間の学問的なプロジェクトを推し進め、ネットワーク・プロジェクトを推進することはこの地域のもつ世界史的意義からして、重要な意味をもっている。

さらにこの共同プロジェクトの成果が、各国にフィードバックされ、各国の経営と経済の発展に具体化されることは、画期的な出来事なのである。このように、東アジア経営学会国際連合のもつ現代的意義は、はかり知れないものがある。

以上の諸点で明らかなように、ここではプロシーディングスの序文として述べたものである。今後、3年に1回、大会を継続し、毎年、ワークショップを参加各国で開催することは、この学会の発展とともに、アジア経済、ひいては世界経済にとって重要なインパクトを与えるものである。

1993年 9月16日

東アジア経営学会国際連合

アジア経営学会

} 創立大会準備委員長

野口 祐